



聖公会大学校

Sungkonghoe University



大韓民国

ホームページ <http://skhu.ac.kr/main.aspx>

交流協定締結年月日：2016年5月25日 主管学部：経済学部



国際交流の特色

聖公会大学校は、1914年に聖ミカエル神学院として設立され、1994年に聖公会大学校と改称された。1995年には世界聖公会大学校協議会の会員校として加入し活動している。聖公会大学校は3系列（学部）で、規模は大きくないものの、韓国社会で最も影響力のある大学のひとつとして定評があり、「NGO大学」とも呼ばれるほど、学外の多くの市民団体と密接なネットワークを形成しているユニークな大学である。

交流実績（平成31年度～令和3年度）

年度	H31	R2	R3
受入・派遣			
学生の受入	0	0	0
学生の派遣	0	0	0
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	0	0
オンライン交流参加者（本学）		0	10
オンライン交流参加者（相手機関）		0	9

学生からの声

●2018年度（2018年9月～2019年7月）派遣交換留学
 聖公会大学は仁川に近いソウル郊外に位置しているため、騒がしすぎず落ち着いた地域にあります。地下鉄駅も学校から徒歩10分程度のところであり、繁華街までは地下鉄に乗って3、40分程度で行けるので休日などは買い物などにすぐ出かけることができます。学校自体は小さく、生徒や留学生はそこまで多くはありませんが、一方で教室移動が楽であったり、留学生だということで珍しがってもらえるため、教授や生徒たちがよく気を遣ってくれたりするなど、利点もたくさんありました。語学堂は秋学期のみ通いましたが、様々な国籍の生徒と友達になることができました。大学の授業は日本の政治やメディアコンテンツ、女性運動史などの授業を受けました。韓国語で韓国人の生徒と共に受ける授業のため、ついていくのが大変で資料や論文を読むのも時間がかりましたが、授業で出会った友達や先生が助けてくれたり、自習室でずっと勉強したりして単位を取ることができました。現地の学生の勤勉さや意識の高さに圧倒されることもありましたが、そういった環境の中で頑張れたことで自分を成長させることができました。
 （加藤七海2016年度入学）

教員からの声

※R2は新型コロナウイルス感染拡大のためプログラム実施中止

学術交流協定の締結直後から、聖公会大学校社会融合自律学部と本学経済学部は学生を引率し両校を訪問する合同研修のプログラムを進めています。既存の外国語関連研修とは違って、経営系の専門的知識を、講義とフィールドワークの形式で行うという新しい試みでした。

授業は、両国の学生がワンチームで講義とフィールドワークをとおして課題を解決し、両国の経済・社会・文化を理解するプロセスになっています。2020年2月と2021年2月の実施はコロナ禍のために見送られました。しかし、コロナで世界の交流が止まっているときこそ、学生同士の国際交流の場が切実である、との教員の共通認識により、2022年2月オンラインでの実施を試みました。オンラインによる国際合同授業、特にフィールドワーク系はさまざまな困難が予想され、実際対応に追われる場面もありましたが、両校教員の奮闘と学生たちの積極的な参加により、最終的には質の良い報告会と成果物ができました。結果として、ある程度学習と交流の二兎を得ることができたと思います。2022年現在、まだコロナは終息していませんが、この授業での経験を活かし、今後もさまざまな形で国際交流を続けたいと思います。
 経済学部教授 朴 恩芝

●2021年度（2022年2月16日～28日）（特）
 課題解決型海外合同研修（聖公会大学校とのオンライン授業）

これまで韓国についての授業等を受けたことがなく、韓国についての予備知識がほとんどないまま参加をしたので少し不安でしたが、楽しく講義を受けることができました。本講義の目的は日韓の流通構造の比較分析および両国の文化への理解と関心を深めることでしたが、私はそれ以上に、聖公会大学の学生の皆さんと交流できたことが一番有意義だったと感じています。言語が違うからこそ、意志疎通に間違いがないように念入りに確認し合うことを意識し、最後には全員が納得のいく報告書を作ることができました。短い時間でしたが、とても貴重な経験になりました。最終日の報告会にて写真でしか見られなかった韓国の様々な場所は、いつか自分の目で見てみたいと思っています。
 （濱崎菜々2018年度入学）